秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

きらりNet

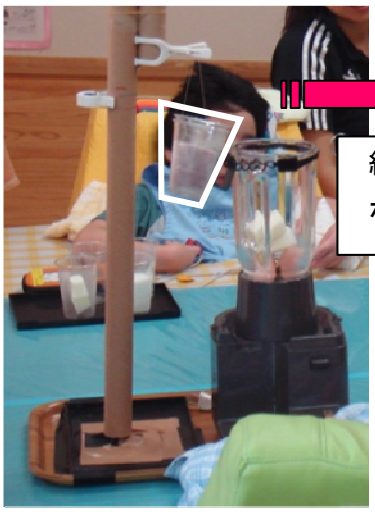
平成２８年７月２２日
第６４号
秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

教材・教具紹介

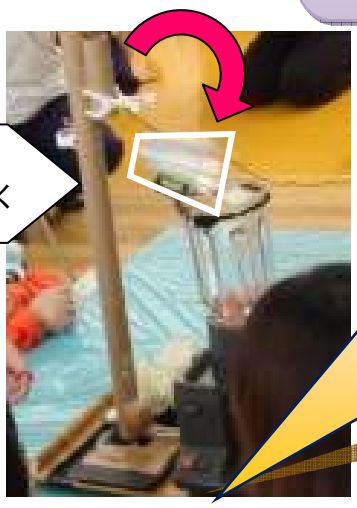
「落下装置　～ミキサー編～」

材料：プラスチックコップ
インサートカップホルダーの持ち手
洗濯ばさみ　テグス
支柱　ゴム紐　お盆

◎目　的：わずかな力で紐を引っ張り、ミキサーに材料を入れる。



紐を引く力で
ホルダーが傾く



〈確実に材料を入れるために〉

・ミキサー開口部にインサートカップの持ち手部分を添えて、ゴム紐を通す。

・支柱が安定するように、ガムテープでお盆に固定する。

point!

おためしください！

【指導への活用の仕方】

・確実に材料を入れることができるので、児童の成功体験を増やすことが可能。
・友達と役割分担して、みんなで一つの飲み物を作ることができる。
・宿泊学習の野外炊飯では、自分たちが作ったヨーグルトドリンクを友達に飲んでもらい「おいしい！」「ありがとう！」と喜んでもらう経験ができた。
・ミキサーを使用せずに、魚の餌やりなどの係活動にも広げることができる。

〈参考〉　マジカルトイボックスのアイデア＆ヒント７７　編著　金森克浩

廃品を利用してこんな物も・・・

「ころころマレット」

◎材料：ひのきボール【お風呂の香り付け】
クリップ（または細い針金）　木工用ボンド
手芸用ゴム製のストラップ（100 円ｼｮｯﾌﾟ）

☆指に紐を掛けることで、木琴を鳴らし続けることができる。ひのきボールをクリップ等で数個連結させることで、自在に動くため、一度に２つ以上の音を出すことができる。

☆ひのきボールは材質がやわらかいため、加工しやすい。

注目！

連載　きらりの授業　その②

高等部　自立活動「運動」

高等部の自立活動を主とした学習グループ１・２・３年合同で実施している**自立活動「運動」**では、今年度、自立活動の「身体の動き」に重点を置き、目標を次のようにして授業づくりをしています。

- **様々な姿勢を保持したり、目的をもって上肢や下肢を動かしたりする。**
- **同じグループの友達や教師の動きや話し掛けに反応したり、気持ちを表したりする。**

フィジオロール（別名ピーナッツボール）…うつ伏せで前後に揺れ、両手や両足を接地したり、頸部を重力に逆らって上げたりする運動の様子です。

ブロックマット円柱…馬乗りにまたがり、左方や右方に身体を傾けた状態で一人でバランスをとって静止したり、自分の力で左右に揺れたりする運動の様子です。

５月、６月は「きらりスポーツジム」という４種類の運動コーナーを、学年グループや複数学年グループで巡回して運動する題材に取り組みました。

【設定したコーナー】

①ストレッチコーナー　（セラピーマット、訓練台を使用した活動コーナー）
②ランニングコーナー　（SRCウォーカー、キャスターボードを使用したコーナー）
③フィジオロールコーナー（フィジオロール、ブロックマット円柱等を使用したコーナー）
④バランスボードコーナー（バランスボードを使用したコーナー）

生徒たちはグループの友達の応援を受けながら、上記の教具を使った運動に挑戦しました。左右の傾きに対して傾斜した頭部や上半身を立て直したり、椅子座位姿勢で足底接地や抗重力姿勢の保持（頭部を支えない座位等）をしたりし、教師や友達の歓声を受けながら、とてもいい表情で運動活動に取り組んでいます。

教育専門監のコーナー「豊かな認知を育む」

《感覚と運動の高次化から見た発達水準》

【第Ⅰ層　初期感覚の世界】
前庭感覚(重力の方向、体の揺れ、スピード感等)、固有感覚(体の様々な部分の位置や動き、関節の曲がり具合、筋肉への力の入れ具合等)、皮膚感覚(触覚、痛覚、冷覚、温覚等)などを中心とした成熟の早い感覚器官を活用します。感覚はつぎのように成熟していきます。

前庭感覚・固有感覚→触感覚→聴覚→視覚

【第Ⅱ層　知覚の世界】
視覚運動協応力、聴覚運動協応力、視知覚、聴視覚が育まれます。

【第Ⅲ層　象徴化の世界】
視覚表象が育まれ象徴あそびができるようになります。また聴覚表象が育まれ、象徴機能により音声で事象を置き換えることができるようになります。

【第Ⅳ層　概念化の世界】
象徴機能が高次化し、言葉や文字・数という概念的な記号操作が獲得されます。また概念化により、他者や事象という外界をいっそう理解するようになります。

宇佐川　浩（1947-2010）

《認知を育む授業づくり》

子どもたちの周りには光、音、においなど色々な感覚情報があります。それらが聴覚、視覚等の5感や皮膚感覚、前庭感覚等の様々な感覚器官により、受容され、脳で情報として処理されることで、子どもたちは、周囲の様子をとらえたり、自分自身の身体状態を把握したりすることになります。本校では、前庭感覚・固有感覚を活用する高等部の自立活動「運動」のように認知を育む様々な学習活動を行っています。その中で、触運動感覚を中心に人や物という外界を探索する力を育てたり、目と手を使って事物を操作して自己の体に気付いたり、自身の運動の調節により、より明確に線や面、三次元の空間を認識していく力を育んでいきます。授業では、教師との関わりの中で目と目が合い、子どもたちの指さしや音声模倣、身体模倣が表現されていきます。これらが礎となって、徐々にあそびが拡がり、みたてあそびや簡単なことば等イメージの世界が拡げられていくことになります。

【参考文献:「感覚と運動の高次化から見た子ども理解」
宇佐川　浩（2007）】

文責:二階堂悟

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭　　伊藤　敏博　　地域支援部　　佐藤　忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢３番 127
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018（889）8573　　FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。
http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html